

にいがた教育フォーラム 2019 in July

尾身浩光

7月27日(土)、新潟大学教育学部において、これからの教育についてともに考え、語り合い、学び合う「にいがた教育フォーラム 2019 in July」を開催した。今回は、講演、ラウンドテーブルを中心に県内外の教職員、大学教員、教育委員会の管理主事、指導主事や学部生等、100名近い参加者を得て、活発に議論が展開された。

1 講演の概要

「育つこと 育てること～教員としての資質・力量の形成を図るために～」 福井大学 理事副学長 松木健一様

知識基盤社会や人口減少と社会構造、産業構造の変化の中、学校は荒波や強風にさらされている。豊かさを享受し、継続することが困難になってきたからである。これまでの学校は子どもに勤勉性を求めてきたが、子どもの発達が以前よりゆっくりになっている。そのため、発達と社会的期待とのズレが生じ、反抗や挫折、引きこもりを生む要因にもなっている。したがって、子どもが自身で乗り越えられるコンピテンシーを育てることが肝要である。

また、「学校種を超えた学校の創造」「ネットを用いたバーチャルな学校の創造」「ソーシャルキャピタルを生かした複合型学校の創造」等、学校のかたちも変わっていく。このような学校のかたちや役割の変化に伴い、新たな教師の資質・能力が問われるようになる。Society5.0を迎える社会においては、知識そのものではなく、状況に照らして知識を創り出す能力、その知識を状況に照らして運用する能力が問われている。知識基盤社会は知識を消耗する社会といえる。学ぶべき知識はどんどん変わっており、教師も「教える人」から「学ぶ人」にならなければならない。“探究の同伴者”、これが教師に求められている資質・能力である。

学習指導要領が、コンテンツベースからコンピテンシーベースとなった。しかし、コンテンツのない教育は存在しないし、

コンピテンシーは直接的に教示できない。参考となるのが幼児教育にある。幼児教育は5領域あるが、コンテンツは決められていない。遊びを通して学び、一貫して資質・能力、つまりコンピテンシーの育成を行っている。現在は、「現状のダイヤモンド」のカリキュラムであり、今後「将来のダイヤモンド」に基づくカリキュラムにする必要がある。

教師は学校で育つ。しかし、独りでは育たない。学校に学び合う専門職のコミュニティーをつくることが求められている。教師は教える専門家ではなく、学びの専門家であること、が期待される。

2 ラウンドテーブルの概要

年齢・役割・立場を越えた参加者が少人数のグループを構成し、各課題を伝え合い議論を進めた。一般参加者や院生からの話題提供に基づいて議論を深めるグループ、各自の実践や共通テーマを見出して、互いの悩みを議論するグループなど、各分科会の議論を深め合う様子が見られた。どの分科会も時間の経過とともに活発になっており、終了時刻後も話し合いを続けるグループも見られた。

分科会	話題提供の内容・テーマ
1 教育課程	学ぶ目的・表現力を育成する教科横断的な単元、ICTによる学習環境、文化共生的資質・能力の育成、小中・小中連携など
2 授業づくり	主体的な学習、読みを深める国語、多角的に考える授業、既習事項を用いた問題解的授業、対話が生まれる授業デザインなど
3 生徒指導・教育相談	キャリア教育視点による学習・学校生活の意義づけ など
4 学年・学級経営	主体的な学ぶ授業の創造、「問い」からつくる授業、児童のリーダーシップの育成、学年ワイドPBSによる児童支援 など
5 学校経営	同僚性を高める校内研修・カリキュラム、スタートカリキュラムの編成、地域共育コミュニティーの構築 など
・特別支援教育	UDL視点からの授業づくり、子ども同士の理解と支援、応用行動分析学による校内研修のあり方 など

本報告は、当日の記録及び教育フォーラムの案内チラシや「教職大学院 News Letter 協創第9号」の記述を基に作成した。